

研究タイトル： ・ 北海道水産品の輸出流通調査、および活魚輸送(国内)について
 ・ 発展途上国の橋梁維持管理の実態調査



氏名：	松尾優子 / MATSUO Yuko	E-mail：	
職名：	准教授	学位：	工学博士（北海道大学）
所属学会・協会：	土木学会		
キーワード：	地域振興、社会基盤構造物		
技術相談 提供可能技術：	水産土木系では、北海道水産品の輸出流通調査、輸送時の経過水温、溶存酸素濃度測定、橋梁維持に関しては発展途上国の橋梁維持管理の実態調査などをおこなっています。		

研究内容：

本研究室では、前職の公務員（道路計画、港湾系施設整備）での職務経験と平成 25 年度 1 年間香港に滞在した経験から、主に以下の2テーマを研究しています。

1. マツカワカレイの活輸送方法に関する実験的研究

苫小牧の水産資源として全国水揚げ量1位のホッキガイが知られていますが、近年、一時激減していたマツカワカレイが「えりも以西栽培漁業振興協議会」の放流事業により漁獲量が増加しています。マツカワカレイは「王鰈(おうちょう)」と称され、高級魚として知られており、漁獲量の増加に伴い北海道外市場からの需要が高まっています。そのため、現在苫小牧地区ではマツカワカレイの道外市場に向けての活漁での出荷(活輸送)が本格化しています。しかし、活輸送において商品到着時の生存率は不安定であるといった課題があります。



そのため、マツカワカレイの活輸送における輸送条件（輸送前の蓄養、輸送中の水量、水温、溶存酸素濃度）を実験により調査し、最適輸送条件を検討しています。また、道外へ向けて航空便だけではなく、トラックやフェリーを利用したトラック便や、香港などの輸出に向けて、40 時間以上の活輸送方法についても検討を行っています。

2. 発展途上国の産業構造に基づいた持続的なインフラ維持管理能力向上のための技術支援の検討

社会基盤構造物の老朽化問題は、我が国のみならず、先進国、発展途上国においても急務であり、LCC の最小化は全世界的な課題です。特に発展途上国では、独立前に建設された構造物や、ODA 支援などにより建設された構造物の維持管理や補修補強は、技術、資金、機材等が乏しい中で適切に行っていくのは非常に困難な状況です。

そのため、発展途上国における社会基盤構造物の維持管理能力向上のため、途上国の実情や産業構造を調査し、その国の産業に適した LCC が最小となる維持管理手法と、各国の将来産業を見据えた維持管理に関わる全般的な技術支援について検討を行っています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
溶存酸素ロガー	HOBO U26
水中用温度計測データロガー	テイドビット V2